

学校経営方針



本校が大事にしている言葉

視遠惟明（しえんいめい）

*遠い将来のことを良く見通すためには明でなければならない

学校長 滝澤 政彦

一 西小学校の歴史と文化

我が国に学制が公布された翌年、明治6年（1873）鎌原、西脇、諏訪部、生塚、秋和の各村を学区にして向源寺（常磐城 2-807）に置かれた惟明学校が本校の出発点となる。その後、発せられた小学校令、国民学校令や統廃合により、校名に変遷があったが、昭和22年（1967）の学制改革により上田市立西小学校となり、現在に至っている。昨年の11月25日（土）に創立150周年記念式典を挙行了。

本校は城下町としての古い町並みや伝統を残す地域と、高度経済成長の中で新たに発展した住宅地域とから成り立っているため、文化財や歴史的な人物の業績が地域に伝えられているとともに、公民館活動、地域活動が盛んな文教地域である。また、保護者や地域の方の学校への関心も高く、教科等における学力とともに、人間的な高まりや地域の伝統文化、自然を大切にできる心情を備えた子どもの育成を願っている。

二 学校教育目標

「聴き合う・支え合う・学び合う学校」



三 本年度の重点目標

社会が変化するスピードは年々加速しており、子どもたちが進む未来は、予測不可能である。そのような時代を切り拓くためには、どんな力が必要なのだろうか。私は、自分達で課題を設定し、幅広く情報を集め、仲間と力を合わせて取り組む力だと思う。キーワードは「探究」と「協働」である。互いの声に耳を傾け、聴き合うこと。教室に言葉が響き合うこと。分からない時に遠慮せず「教えて」と言えること。「教えて」と言われたら、自分のすべてを使って伝え、支えること。友と協働し、探究的な学びが深まることを大切にしたい。

四 グランドデザインのコンセプト

新型コロナウイルス感染症は五類に下がり、学校にも通常の生活が戻ってきた。多くの教育活動が制限されたコロナ禍で再認識した学校の価値。それは、人と人が関わる場所ということ、そして思い出を残す場所という二つである。子どもたちにとって、遠足や運動会などの行事はとても大切である。最後まで歩ききった。全力で頑張った。そういう思い出は、いつまでも忘れることはない。つらいことがあっても「あの時頑張れたんだから、きっと大丈夫

夫」と思えば力が出る。これが縦の糸だと考える。

では横の糸は何であろう。それは友達や先生、そして地域の方に見守られ、励まされ、支えられたという経験であると考え。「自分は一人じゃない。みんなが励ましてくれる」そう思えば頑張れる。この縦糸と横糸を強くしっかりと織り重ねることが大切である。それが、その子の自立のための足場になるからである。



このようなコンセプトに基づき、上田の伝統工芸品「上田紬」をモチーフにして令和4年度にグランドデザインを新たに作成した。本年度も、このベースデザインを踏襲する。

五 具体的方策

1 横糸①：友だち

(1) 人権教育の充実

人権教育の年間計画を見直すと共に、改訂された「あけぼの」を活用しながら人権教育の授業改善を進める。特に高学年では同和教育の推進に力を入れる。子どもたちが安心して学ぶことができるよう、いじめや差別のない学級を目指す。

(2) 特別支援教育の充実

通常学級におけるインクルーシブ教育の充実を図る。本年度も、毎週木曜日の午前中に北小学校のLD等通級指導教室の先生が西小学校に来て指導してもらう。今後も、一層連携を深めたい。1年生がスムーズに小学校生活をスタートできるよう、令和4年度から始まった「スタートカリキュラム」を本年度も実施する。これらの取り組みにより、障がいのある子も含め、全ての子が安心して学べる環境づくりを目指す。

(3) 「教えて」と言える友との関係

このようにして安心して学べる学級の雰囲気醸成されることは、子どもたちが、お互いの言葉を聴き合う関係につながる。そして、それらの言葉が響きあう授業へと発展する。分からないことを恥ずかしいと思わず、安心して「教えて」と言える友との関係は、横糸②：先生(1)の「協働的な学び」の土台となる。



(4) つながりを深める交流活動

児童会活動の「えがお集会」や「なかよしタイム」、また「西小アドベンチャー」や「なかよし郵便」の交流活動を通してペア学級の交流を進める。

2 横糸②：先生

(1) 教職員の指導力向上

教職員が互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善する。昨年度に引き続き、麻布教育研究所（東京）の村瀬公胤（むらせ・まさつぐ）先生を2回お招きし、授業改善研修会を開いてご指導を受ける。これらの取り組みにより、子どもの声に耳を傾ける教師が、ジャンプのある課題を設定した授業を展開し、友と関わり合いながらペアやグループで学習を深める「協働的な学び」の充実を目指す。

また、外部講師を招いて、通常学級における特別支援教育の研修会を開き、通常学級におけるインクルーシブ教育の充実を図る。

(2) ふるさと学習の充実

本校周辺には、上田城跡や旧北国街道沿いの町並みなどの文化財が残る。また、太郎山周辺には豊かな自然が広がっている。生活科や総合的な学習の時間に、積極的に校外に出て、ふるさとで学びを深める。



(3) 体育学習の充実

運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業を展開することで、運動が好きな子どもの育成を目指す。このことが、結果として、コロナ禍で低下した体力の向上や基本的な技能の定着に結びつくと考えている。

(4) 学校行事を大切に

コロナ禍の中、多くの行事が中止や縮小を余儀なくされた。しかし、本校では、できる限り行事を実施する努力をした。その結果、子どもたちが多くの思い出を残すことができた。本年度も引き続き行事を大切にしたい。実施にあたっては、子どもたちが主役になるよう配慮する。そして、子どもたちが、満足感や達成感を味わえるようにしたい。行事のための準備に要する時間をできる限り減らすため、授業の延長としての行事を心がける。

3 横糸③：地域の方

(1) 地域ボランティアとの協働

本校では、多くのボランティアが活動している。昨年度「西小見守り隊」が文部科学大臣表彰をいただいた。しかし、高齢化などの理由により、見守り隊の人数は減少している。今後、見守り隊の人数が増えるように働きかけるなど環境を整えていく。

